

第4回 北陸新幹線の工程・事業費管理に関する検証委員会 主なご指摘事項

令和2年12月4日（金）13:00～15:00
於：中央合同庁舎2号館1階共用会議室1

リスク要因の分析について

○通常想定される範囲を超えるリスクが生じた際、対応方針として国や自治体に相談するとされているが、それはやむを得ないという理解か。

コスト縮減策の検討について

- 工期が長くなることによって増加するコストと工期を短くするために必要となるコストがあることに言及しておくこと。
- 工期を精査したことによって生じたコスト縮減は、その旨が分かるように記載すること。

加賀トンネルの盤ぶくれ対策について

- 北陸新幹線金沢・敦賀間のトンネル工事に関しては、専門家による検討がなされており、加賀トンネルについても元々盤ぶくれが想定されており、対策が行われていたにもかかわらず想定以上の盤ぶくれが生じてしまったこと、その他のトンネルでは問題がなかったことを示すこと。
- 開業後のメンテナンスの観点からも、機構とJRとの間で、しっかりとデータを共有すること。

中間報告書（素案）について

- これまでの事業においても様々な外的・内的要因によるリスクが存在しており、それらに対応してきたことをしっかりと示すこと。
- 加賀トンネルについては有識者委員会を設置して、事前に検討・対策がなされており、他のトンネルでは問題がなかったこと、それでも盤ぶくれについては科学的に未解明な点が残されており、加賀トンネルでは想定を上回る盤ぶくれが発生したことを、中間報告書においても示すこと。
- 機構の事業費管理のルールについて記載しているが、ルールの趣旨・目的を明確に記述すること。
- 中間報告という点ではいいが、最終報告に向けては、機構内における体制とルール、どのような情報共有が行われていたのか、機構の社風といったガバナンスの点について議論していきたい。
- 中間報告では事実関係の整理とするが、機構の支社や施工業者などの意見なども取り込んで最終報告は整理していきたい。